

鷺沼駅前地区における3つの課題

- ① 交通渋滞と交通広場の機能不足
- ② 地域生活拠点としての整備
- ③ 子育て世帯流出と高齢化

鷺沼駅前地区における3つの強み

- ① 駅へのバスアクセス需要
- ② 良質な住宅街としての歴史
- ③ 銀行、商店街等生活利便の存在

鷺沼駅前地区における好機

働き方改革に伴う郊外の多機能化傾向

鷺沼駅前地区再開発事業における4つの開発コンセプト

【1】 交通広場の拡充により公共交通 利便性の向上を目指します

・バスの乗車場を増設します。



【2】 鷺沼の新しい顔として駅・生活機能・ 地域をつなぐ広場機能を作ります

・多機能が融合する空間を設えることで、多世代が訪れ、コミュニティ形成に寄与する空間を目指します。



【3】 高低差を活かし、駅前空間を楽しく 快適な街歩きの場所に変えます

・街と計画地をつなぐ歩行者動線ネットワーク周辺には、生活支援機能として商業区画を配し、魅力の向上を図ります。



【4】 「駅前に住む」「駅前で働く」という 魅力あるライフスタイルを作ります

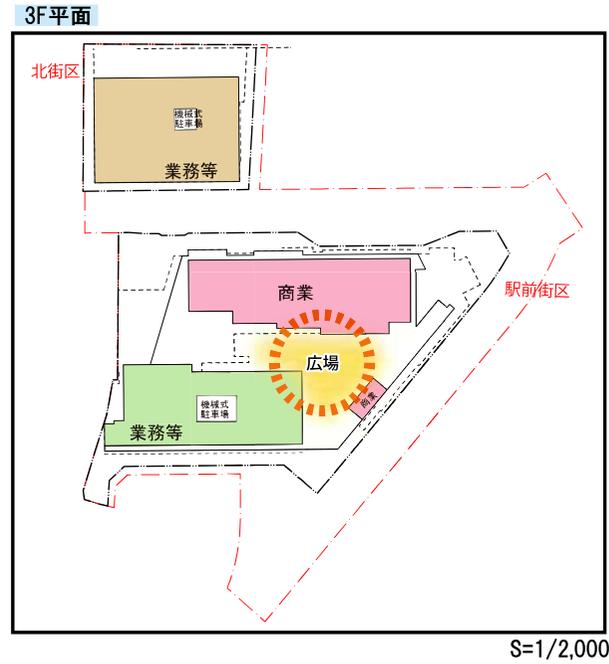
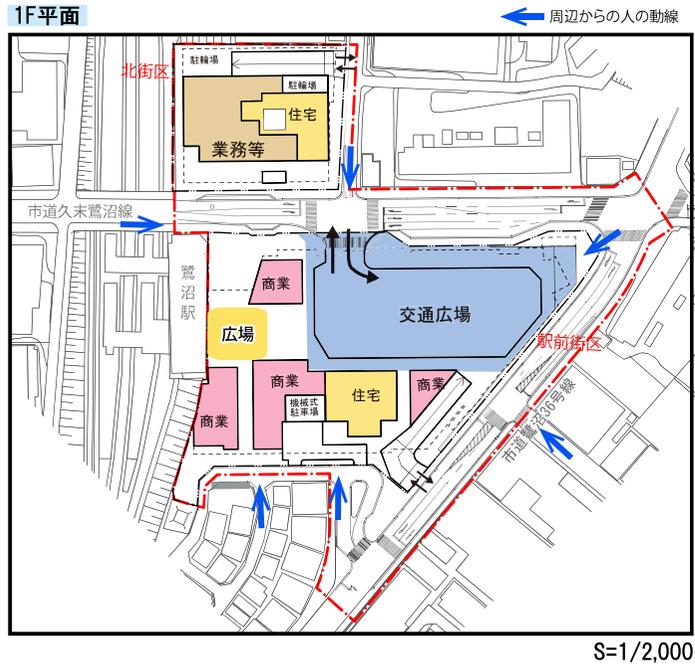
・駅直結の利便性を活かして 多世代のライフスタイルに対応する機能集積を図ります。



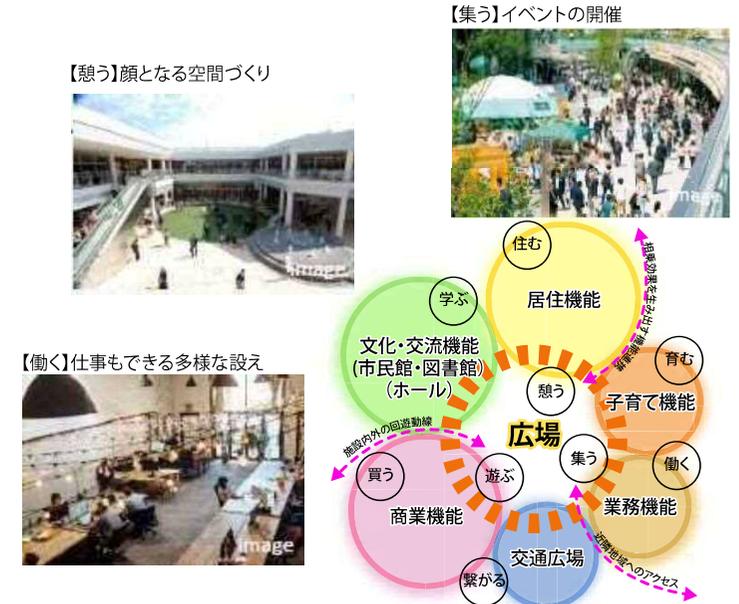
今後の検討について

・防災の観点での施設建築計画については、耐震・不燃化等、総合的な安全対策を川崎市と連携のうえ今後検討してまいります。

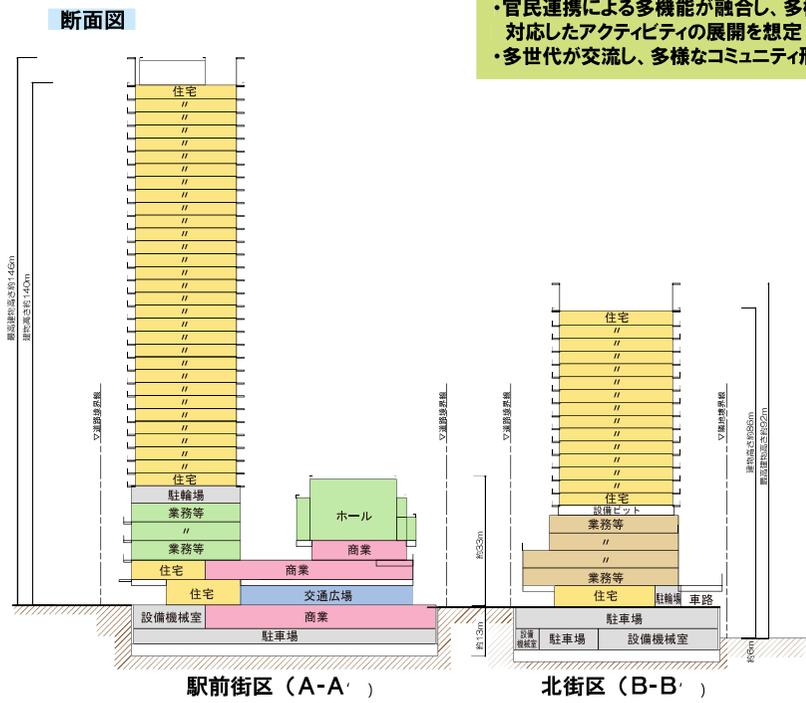
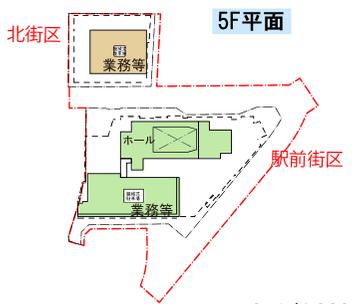
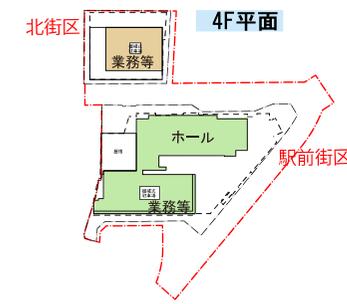
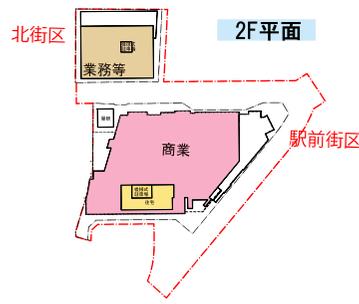
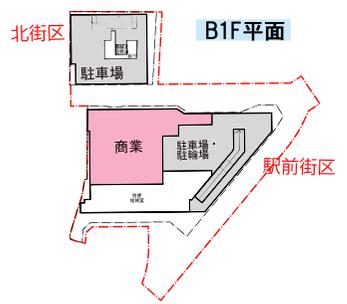
※環境アセスメント条列方法書手続き時点のイメージであり今後変更となる可能性があります。



【参考】3F広場を介した官民連携による機能連携イメージ



・官民連携による多機能が融合し、多様な世代のライフスタイルに対応したアクティビティの展開を想定
 ・多世代が交流し、多様なコミュニティ形成に寄与する空間を目指します



施設概要(案)

【駅前街区】	敷地面積: 約11,170㎡
	延床面積: 約86,000㎡
	容積対象床面積: 約55,850㎡
	容積率: 約500%
【北街区】	敷地面積: 約3,680㎡
	延床面積: 約29,000㎡
	容積対象床面積: 約18,400㎡
	容積率: 約500%